

## 令和元年度第3回埼玉県公共事業評価監視委員会 会議要旨

## 1 再評価実施事業の審議

## ① 101 森林管理道整備事業 西名栗線

委員： 森林整備はどこが実施しているのか。

事業課： 森林組合を中心とし、県内の事業体が行っている。

委員： 林道を開設することで施業効率はあがるのか。

事業課： 架線を用いた集材方法もあるが、現在は林道を活用した車両系集材が行われており効率的な施業に寄与している。

委員： 幅員を狭めたことについては問題ないのか。

事業課： 規程の範囲内で工事を行っており、トラックの通行に支障はない。

委員： H26年の事業評価で5年延長しており、今回は13年の延長となっているが計画どおりに実施出来るのか。

事業課： 林道開設工事の進捗には限界があり1年間で200m～300m程度しか開設できない。そのため、2工区体制で工事を進めるなどの対応をとる。

委員： 埼玉県では脱プラスチックを推進しているが、間伐材の利用等は出来ないか。

事業課： 木材利用に関しては、引き続き利用推進を図っていく。

委員： B/Cの根拠となる資料についての提出を依頼したい。

事業課： 資料に関しては後日提出する。

## ② 202 街路整備事業 草加三郷線（西袋工区）

委員： 費用便益比の減少については、センサスの将来OD表の違いが影響しているということか。費用便益比は減少しているが、便益が上がっている理由は何か。

事業課： 費用便益比の減少は、H17年度センサスのOD表を最新のH22年度センサスのOD表に変更したことによる減少と、便益を算出するための原単位が減少したことによるものである。便益が上がっているのは、交通量が増加していることが最大の要因となっている。

委員： 橋りょう部と土地区画整理事業の道路はどちらが先に完了するか。

事業課： 土地区画整理事業区域の道路は概成している。橋の架け換えは早期完成を目指し進めていく。

委員： 交通センサスは22年度版を使用したということだが、様式1の交通センサスが27年度版になっている理由は何か。

事業課： B/Cを算出するための将来OD表は、22年度版が最新であるため、B/C算出に当たっては22年度版を使用している。現況交通量は27年度版のデータが最新であるため、様式1には27年度版のデータを記載している。

委員： この地域の人口予測はどのようになっているか。

事業課： 八潮市の人口は平成26年当時が約8万5千人であったのに対し、令和元年は約9万1千人と6千人ほど増加している。つくばエクスプレスの駅開業等が影響し、県南人口は増加傾向にある。

委員： 用地買収が8割というのは進捗上、計画通りということによいか。  
 事業課： 用地買収は計画通り順調に進捗しており、残る地権者について、随時交渉を進めている。

委員： この辺りに線路の下をくぐる等、地形より道路が低くなるような場所はあるか。  
 事業課： 本路線ではそのような区域はない。

### ③ 203 街路整備事業 仲仙道（北本工区）

委員： 電線類の地中化を実施することで得られる便益はB/Cに計上しているか。

事業課： B/Cに計上していない。電線類の地中化を実施することで得られる便益は今後、国土交通省で検討していくと聞いている。

委員： 電柱がある場合と電線共同溝を整備した場合を比較し、地震等の災害時に影響が大きいのはどちらか。

事業課： 今年度の千葉の災害では強風の被害で電柱が倒壊する被害があった。緊急輸送道路などの重要な道路は地表の障害物を除いていくことが大切だと考えている。

委員： 電線類の地中化を実施する路線はどのように選定するのか。液状化など地域の地質などを考慮する必要はあるか。

事業課： 電柱を除く手法は地中化以外にもあり、軒下配線や裏配線などの手法で無電柱化を進める手法もある。そのため、無電柱化の手法については、その地域に合わせて検討している。

### ④ 204 街路整備事業 飯能所沢線（3工区）

委員： 所沢市内の交通量が減少しているのはどういう理由か。

事業課： 所沢市周辺の新しい道路の開通で所沢市を通過する交通が減ったのではないかと考えられる。

委員： 飯能所沢線の接続先である東京都側の計画はどのようになっているか。

事業課： 東京都とは継続的に協議を進めている。東京都側の接続先の路線は、平成23年度に都市計画変更し、平成27年度に東京都の優先整備路線に選定された。

現在は、埼玉県側の整備が進んでいるため、引き続き、東京都と協議を進め、事業効果の発現を図っていく。

### ⑤ 205 街路整備事業（連続立体交差事業） 東武鉄道伊勢崎線・野田線（春日部駅付近）

委員： 鉄道事業者の負担はどれぐらいか。

事業課： 事業費の10%と野田線のホームなどの増設部について鉄道事業者が負担する。

委員： 駅前ロータリーの整備計画はあるか。

事業課： 春日部市が整備を行うこととしており、市が設置したまちづくり審議会の中で具体的な内容について検討している。

委員： 参考資料3①で、127号踏切の交通量が100台から200台に増えているのはなぜか。

事業課： 踏切がなくなることにより交通が円滑となることから交通量が増えている。

委員： 参考資料3①で、126号踏切の交通量が0台になっているのはなぜか。

事業課： 四捨五入の単位が100台であることから、0台と記載している。